

震災からの図書館の 復旧とその後の対応

図書館長 羽田 紘一

大学本館内に設置されている図書館は、建物被害はごく軽微であったものの、16万冊の蔵書のうち、7割弱の本が書架から落ちた。人海戦術で書架に戻し、約2.5ヶ月後にほぼ平常態勢に戻った。

図書館委員会

1. 被災時の状況

今回の被災の中でも幸いしたことは、春期休暇を利用して地震発生の2日前(3月9日)から震災当日(3月11日)までの予定で、年度末恒例の蔵書点検作業中であったため、全館休館で館内には学生や一般利用者がおらず人的被害が生じなかったことである。

3日間の蔵書点検作業は、1階書架から2階書架へと順調に進み、最終日の3月11日は図書館員6人が朝から3階の洋書の点検作業の実施中であり、あと100冊ほどを残し完了という最終の段階に入ろうとしていた。14時46分の地震発生にともない、図書館員は3階から1階を経由して屋外へと無事避難した。

震災翌日(3月12日)の状況検分で図書館の被害状況は以下の通りであることが確認された。書架からの書籍の落下は1階(辞典、百科事典、年鑑等の参考図書および大型の地図、美術全集等の大型図書)が約3割、2階(和図書、文庫・新書)が9割、3階(洋図書、学術雑誌)が8割、さらに3階の書庫1(製本和洋学術雑誌)が9割、書庫2,3(保管図書類)が2割であった。書架の倒壊は3階で1台、1階の図書館事務室作業場で3台あることが確認された。図書館の建物の被害はほぼ皆無であった。その後の書籍の整理の過程で修復を要する破損図書が56冊あることも確認された。

これらの被災状況については、5月12日の図書館委員会で報告され、今後の対応を図る上でまず被災状況に関する情報の共有を図った。

2. 復旧から図書館の再開に至るまでの経緯

震災後の約10日間は主に職員各自の身の状況確認及び関係者の安否確認、自宅の復旧作業、物資の調達や生活の確保に向けられ、可能な者から大学業務に復帰するとの体制をとり、本格的な図書館の復帰作業に取りかかったのは3月22日からであった。

まずは落下図書を書架に戻す作業からスタートした。ひごの高さまで本が積み重なり、本を踏みつけ踏み越えての作業であった。単に戻すという作業ではなく、各書籍に貼付されているラベル順に配架するという作業で、学生アルバイトの補助を得て人海戦術で、2階(和書)の整理に2週間(4月4日まで)、ついで3階(洋書)の整理に2週間(4月22日まで)、また製本和洋学術雑誌が配架されている中二階構造の書庫1の復旧には、さらに2週間(5月11日まで)を要して図書整理がほぼ完了した。この間、図書館非常勤職員の年度末契約満了で3月末に1人、さらに5月の人事異動で1人の減員があり、苦しい対応を強いられた。また作業が軌道に乗った矢先の4月7日深夜には震度6強の大きな余震が起き、

整理し終えた2階和書の3割が、再び落下するという
ことも起こり、早急の落下防止の対策の必要性を痛
感した。破損図書56冊は5月19日に修理依頼を行
い、6月17日に修復が完了した。

作業のめどがついた5月16日、開館時間を短縮
(当初は10時～15時、5月20日以降は9時～17時
30分)しながら図書館の再開にこぎつけた。6月1日
からは震災前と同じ19時30分まで開館の態勢に復
帰した。

一方、図書・学術雑誌の受け入れ業務は、震災直
後から交通アクセスが寸断されたため中断を余儀
なくされ、震災から約1か月後の4月中旬からそれま
での学術雑誌の滞り分の納入が一括してスタートし
た。図書の受け入れが再開したのは6月1日であっ
た。

また大学図書館相互利用(ILL) による文献複写
及び貸借関連業務は、本学から他大学への依頼再
開が4月7日、他大学から本学への受付の再開は5月
13日であった。

3. 図書館員の想いと今後の課題

今回の大きな震災で、失ったものは計り知れない
ものがあるのは紛れもない事実である。物質的なも
の、精神的なもの、そしてもっと核心的な人の命、生
かされたもの、召されたものへの意味論、皆しづかに
語りかけてくる自然との対話・天からの啓示で学び
悟っていく事が求められている。

こころの痛手を負い打ちひしがれる人々、復興に向
けた手がかりを得たいと焦る人々、明日への希望をつ
かもうとする人々、癒し・安らぎの時間と場を求めよう
としている人々、そのような人々のために、被災地の
大学図書館がその一翼を担えないかとの思いでさま
ざまな模索を続けている。その一環として、本学図書
館は大きな痛手を受けた市街地域の文教関連施設
を補完しかつ地域図書館の拠点的な役割を担うと

の認識に立って、当初は年度初めより予定していた
学外利用者の受け入れ枠拡大(高校生以上)を6月
1日からは中学生以上に拡大、さらに大学近郊の仮
設住宅地域市民にも配慮して9月1日からは小学生ま
で拡大(保護者同伴)して、一般市民への利用機会
の提供を図ることとした。合わせて児童向け図書の
寄贈を受け、所蔵書籍のジャンルの拡張を図ることと
した。またオープンキャンパス時や中秋の名月の催し
(9月12日お月見Café)、大学祭(石鳳祭)、青少年
のための科学の祭典(8月20日・21日の出展)、企画
展には努めて参画することとし、学生や市民に癒しと
安らぎの時間と場の提供を図ってきた。

また、平成24年4月には1ヶ月間の予定で、世界で
活躍するアーティスト32人(11ヵ国)から東日本大震
災へ寄せた作品48点を一挙に展示して、復興への
願望と支援の気持ちを世に訴える「大震災から未来
へ」ポスター展の開催を企画している。

合わせて被災時の反省に立って落下書籍の防止
を図るべく、2階及び3階の背丈以上の各書架の上
段部には落下防止のためのブックキーパーの設置
を行った。また、利用者の安全を図るべくフロア毎の
在館者数の常時把握、夜間時における3階の利用制
限・夜間職員の増員、最短非常口への避難誘導の態
勢の構築・館内放送の確保を図ることで当面の対応
を行っている。夏季の期間における反省点として、節
電対策上の制約から快適な図書館環境の維持が困
難であったことは否めない。

石巻市の社会福祉協議会・災害ボランティアセン
ターの本部やボランティア宿営地が大学キャンパス
内に設置されたこともあり、ボランティアの方々の図
書館利用者が急増したことも事実である。利用者の
拡大に伴い、利用心得の周知を図ることも今後の課
題の一つと思われる。

1 その時、大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの
大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会
などの対応・動向

6 建物と地盤に
ついて

7 震災を振り返って

資料編

各学部・委員会などの対応・動向



3F 書庫



3F 洋図書



1F 作業室



2F 和図書

1 その時、大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会などの対応・動向

6 建物と地盤について

7 震災を振り返って

資料編